学　校　だ　よ　り

「みんな花笑み」

「知」　主体的に考え粘り強く取り組む子を育てます。
「徳」　自分を大切にし、互いの違いを認め合える子を育てます。
「体」　心身ともにたくましく生きていく子を育てます。
「公」　まちを愛し、人とつながり、ともに創造する子を育てます。
「開」　広い視野をもち、自分の思いをのびのびと表現する子を育てます。

令和６年１月９日
横浜市立菅田の丘小学校
校長　若山　京子
１月号
［睦月　January］

大きく成長する一年に

校長　若山　京子

元日の夕方に石川県能登地方を震源とする大きな地震、翌日には羽田空港で旅客機と航空機の衝突事故が発生するという、穏やかでない年明けとなりました。災害は時を選ばないとはいうものの、多くの人がお正月休みや帰省でくつろいでいたところへ無情としか思えないような出来事です。衝突事故に関わった機体が被災地支援に向かう航空機だったことにもやりきれない思いになります。被災地や事故の様子を伝えるニュース映像に胸が苦しくなりますが、一刻も早く支援が届くこと、一日でも早い現地の復旧復興を願います。そして、被害に遭われた方々に心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。

気持ちが塞いでしまいそうな中で読んだ年明けの新聞記事に「ネガティブ・ケイパビリティ」という言葉を目にしました。ネガティブという言葉は負のイメージがありますが「答えの出ない事態に耐える力」のことだそうです。作家で精神科医の帚木蓬生（ははきぎほうせい）さんは「世の中は明確な答えのある問題ばかりではない。先が見えず、どうしようもない不安に耐えながら熟慮する。答えが出なくても挑み続ける力『ネガティブ・ケイパビリティ』が大事だ。」と言います。今、世の中ではコストパフォーマンス（コスパ）やタムパフォーマンス（タイパ）が重視され、すぐに答えを導いたり結論を急いだりする風潮が強まっています。しかし、世界に目を向けると、戦争・激甚災害・気候変動・感染症など、解決しなければならない問題が山積しています。それらはすぐに答えが出るものではありません。不確実で曖昧な時代だからこそ、立ち止まり、考え直し、多角的で長期的な視野で物事を捉えることが大切なのかもしれません。子ども達には困難に負けず目の前の課題に一つ一つ取り組みながら、平和で安心できる世の中を創り出す人に育ってほしいと願っています。

冬休み明けから３月まではたいへん短く感じる期間ですが、学校生活の一年を締めくくる大切な時です。子ども達が、あたりまえのことをしっかりできるよう、そして、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、粘り強く問題解決に取り組んでいけるよう支援してまいります。特に６年生にとっては、卒業・進学という人生の節目を迎えようとしています。子ども達には、これまでに積み上げてきた力をもとに自分の目標に向かって着実に歩みを進め、そして上学年の取組みを手本に、次は自分の番という意識を高め次の学年への準備の期間としてほしいと思います。

旧年中は、保護者、地域の皆様に大変お世話になり、心より感謝申し上げます。今年は辰年、子ども達の学びや育ちが、昇り竜のように力強く大きく成長するよう教職員一同、精一杯支援してまいります。本年も本校の教育活動にご支援・ご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。